

「森・川・海」とひとが調和し共生する安らぎのまち

太平洋から昇る朝日に希望を抱き、早池峰に沈む夕日に感謝を覚える。

宮古市は、本州最東端の岬「鉾ヶ崎」、「浄土ヶ浜」や「三王岩」といったリアス海岸が刻む絶景、高山植物の宝庫「早池峰山」、美しい渓谷を流れる「閉伊川」など自然資源に恵まれたまちです。「鮭」「花見かき」「うに」「あわび」などの三陸の海の幸、滋味深い山の幸など、四季折々に多彩な旬の味覚が満喫できます。

「三陸ジオパーク」※は、17のジオポイントがあり、太古からの人と自然の豊かな営みを体感できる魅力ある場所です。

見て満足、食べて満腹の宮古さ、おでんせ。(宮古弁で「来てください」の意)

※「三陸ジオパーク」…岩手県沿岸を含む海岸線約300kmにも及ぶ、日本一広大なジオパーク。ジオパークは、ジオ、エコ、ヒトのつながりを楽しむ場です。

宮古市長 山本正徳

宮古市プロフィール

- 人口：49,737人 ●世帯数：23,310世帯
- 面積：1,259.15km²
- 市の花：ハマギク／市の木：アカマツ
- 市の鳥：ウミネコ／市の魚：サケ

※人口・世帯数・面積は2021年7月1日現在



浄土ヶ浜

「さながら浄土のごとし」と評される、白い岩肌と松の緑のコントラストが美しい宮古を代表する景勝地。

三王岩

高さ50mの男岩の両脇には、23mの女岩と17mの太鼓岩。1億年もの歳月をかけ、三陸の波と海風が形づくった美しい自然の造形です。

ACCESS

●宮古市へのアクセス

- 鉄道：東北新幹線東京駅から盛岡駅まで約2時間10分
JR山田線盛岡駅から宮古駅まで約2時間10分
- バス：東京から高速夜行バスで約9時間
盛岡から106特急バスで約1時間35分
- 飛行機：いわて花巻空港から盛岡まで連絡バスで45分
- 自動車：東北自動車道盛岡南ICから約80km

●最東端「鉾ヶ崎」へのアクセス

- ▶車を利用の場合
JR宮古駅から国道45号を釜石方面へ。稲荷橋前で県道41号へ左折。県道41号を石浜方面へ進み、姉吉キャンプ場へ左折。JR宮古駅から姉吉キャンプ場まで車で50分、キャンプ場から徒歩60分。
- ▶バスを利用の場合
JR宮古駅前バスのりば②から岩手県北バス「重茂石浜」行、バス停「姉吉」下車。JR宮古駅前からバス停「姉吉」まで75分、バス停「姉吉」から徒歩90分。



花見かき

4～5月の2か月間だけ出荷される、宮古湾で育つ大粒のブランド牡蠣。加熱してもふっくら。濃厚な旨みが口の中いっぱい広がります。

サケの炭火焼き

本州一の水揚げ量を誇る宮古の鮭。毎年11月に田老で行われる「鮭・あわびまつり」では鮭の炭火焼きが人気です。

まちの誇りと自然の恵みを未来へつなぐ輝き海峡都市

本州の最西端に位置する下関市は、豊かな自然環境に恵まれると共に、多くの歴史遺産を有する歴史と海峡のまちです。

九州と船の往来を眼前に臨む関門海峡、中国地方屈指の人気観光地角島、数多くの温泉、フク(河豚)、ウニ、クジラ、アンコウ、イカの「五馳走」など、下関市が誇る豊かな自然、味覚は枚挙にいとまがありません。

また、下関市は、幾度も歴史の表舞台となっていました。源平壇ノ浦の合戦、宮本武蔵と佐々木小次郎の巖流島の決闘、そして、明治維新。高杉晋作による奇兵隊の結成、下関四国艦隊砲撃事件、晋作の長府功山寺での拳挙など、下関の地を舞台に歴史は大きく動いていきました。

「まちの誇りと自然の恵みを未来へつなぐ輝き海峡都市」下関。本州最西端の歴史と海峡のまちに、皆様もぜひお越しください。

下関市長 前田晋太郎

ACCESS

●下関市へのアクセス

- 鉄道：JR山陽本線下関駅、新幹線新下関駅
- 飛行機：山口宇部空港よりバスで1時間15分
北九州空港より鉄道で40分またはバスで1時間3分
福岡空港より鉄道(地下鉄→新幹線→在来線)で1時間10分
- 自動車：中国自動車道下関IC

●最西端「毘沙ノ鼻」へのアクセス

- JR下関駅より国道191号を山陰方面へ。JR吉見駅2キロ北、吉母入口交差点より県道245号(吉母海水浴場方面)へ左折。または、JR吉見駅3キロ北、交差点を左折。JR吉見駅より車で25分。



下関市プロフィール

- 人口：251,236人 ●世帯数：115,731世帯
- 面積：716.10km²
- 市の花：ハマユウ／市の木：クスノキ
- 市の花木：ツツジ、サクラ／市の魚：フク
- 市の虫：ホタル／市の動物：くじら
- 市の鳥：ペンギン

※人口・世帯数・面積は2021年7月1日現在



角島

日本海と瀨戸に面し、自然がそのまま残っている美しい島です。本土と島を繋ぐ角島大橋の車窓にはコバルトブルーの海が広がり、訪れる人を魅了してやみません。

海響館

シロナガスクジラの骨格標本展示や、関門海峡を背景にアシカのショーが楽しめる「アクアシター」、日本最大級のペンギン展示施設「ペンギン村」など、他では見ることできない内容が目白押し水族館です。

フク(河豚)

フクの取扱量全国一の下関では、幸福にあやかって河豚のことを「フク」と呼びます。フクを始め、ウニ、クジラ、アンコウ、イカの「五馳走」が皆様のお越しをお待ちしています。

黒潮と本州が最初に出会うまち

はるかに広がる太平洋に面し、東西に長く伸びる海岸線を有する串本町は、黒潮の恵みを受けて、年間の平均気温が17℃前後といたって温暖な町です。2005年には、世界最北限のサンゴ群集を有する海としてその貴重な生態系が認められ、串本の沿岸海域がラムサール条約登録認定を受けるなど、豊かで美しい自然が魅力です。

また、令和3年度に完成する日本初の民間ロケット発射場「スペースポート紀伊」では、同年に初号機の打ち上げが計画されており、串本町では様々な宇宙関連イベントを開催します。串本町のみならず、紀南地方の将来を担うこのロケット事業を必ず成功に導き、こどもたちに夢と希望を与えるふるさとづくりの実現を目指して日々邁進しています。

「本州最南端のまちからロケット最先端のまち」串本町へ、皆様ぜひお越しください。

串本町長 田嶋勝正

串本町プロフィール

- 人口：15,305人 ●世帯数：8,407世帯
- 面積：135.67km²
- 町の花：スイセン／町の木：キンカン
- 町の鳥：メジロ／町の魚：トビウオ

※人口・世帯数・面積は2021年7月1日現在



橋杭岩

串本から大島へ向けて、まるで橋の杭のように大小40余りの奇岩が立ち並ぶ橋杭岩。国の名勝天然記念物にも指定される串本町屈指の景観地です。

潮岬灯台

明治6年の初点灯以来、海上交通の要所として沖を照らし続ける白亜の灯台。灯台のらせん階段を上れば、眼下に太平洋の大海原が広がります。

望楼の芝生(火祭り)

本州最南端の地に広がる約10万平方メートルの草原。毎年1月末には枯れた芝を焼き、新芽の発芽を促す「本州最南端の火祭り」が開催されます。

スペースポート紀伊

ロケット発射イメージ図(スペースワン社提供)。日本初の民間ロケット発射場「スペースポート紀伊」では、20年代半ばに年間20機の打ち上げが計画されています。

津軽海峡の雄大な自然に抱かれたまち

大間町は、本州最北端に位置し、目の前には津軽海峡と北海道の雄大な山々が連なり、旅人の心を揺さぶる自然が広がる漁業を中心とした町です。空気が澄みわたる季節には、北海道函館市の街並みをはっきりと見ることができ、海峡を隔てて最短距離は17.5kmです。

町の代名詞にもなっている「大間まぐろ」のマグロ漁は8月～12月にかけて津軽海峡で繰り広げられ、漁師とマグロの真剣勝負を間近でみることができます。

また、2月と10月のある時期になると、太平洋から日が昇り、日本海へ日が沈む珍しい風景を楽しむことができます。

ぜひ、大間町を訪れ、本州の最北の地を肌で感じてみてはいかがでしょうか。

大間町長 野崎尚文

大間町プロフィール

- 人口：5,006人 ●世帯数：2,495世帯
- 面積：52.10km²
- 町の花：ハマナス
- 町の木：クロマツ
- 町の鳥：カモメ

※人口・世帯数・面積は2021年7月1日現在



本州最北端の碑

「ここ、本州最北端の地」と刻まれ、その前に立つと本州最北端を実感できます。すぐ目の前には津軽海峡が広がり、記念撮影のベストポイントです。

大間まぐろ

大間の代名詞「大間まぐろ」は、全国的に名を馳せています。本マグロは「黒いダイヤ」とも呼ばれ、大間まぐろは最高3億3,360万円の値がついたこともあります。

おおま温泉 海峡保養センター

本州最北端の温泉。ナトリウム、カルシウム等塩化物泉で、リウマチなどに効果があります。サウナもあり、ご宿泊はもちろん日帰り入浴やお食事も楽しんでいただけます。

天妃様行列

毎年7月の大漁祈願祭に合わせて行われています。天妃様は海上守護の女神とされており、東北地方では当町の稲荷神社だけに祀られています。遷座してから300年を迎えた1996年から行列が行われています。

ACCESS

●大間町へのアクセス

- 鉄道：JR野辺地駅～JR下北駅まで約1時間
- バス：JR下北駅から約1時間40分
- 飛行機：青森空港より車で約3時間20分
三沢空港より車で約2時間50分

●最北端「大間崎」へのアクセス

- ▶経路1
国道279号を北上。風間浦村と大間町の境界付近を右折し旧国道へ。旧国道を道なりに、2～3km程度進行すると右手に白と黒の灯台と本州最北端の碑。
- ▶経路2
国道279号を北上。進行方向にガソリンスタンド付近交差点を右折。道なりに進み、4つ目の信号機を右折し、道なりに白黒灯台を目印に進行する。



本州最北端
青森県大間町

北緯 41° 32′ 東経 140° 54′ 大間崎

本州最東端
岩手県宮古市

北緯 39° 32′ 東経 142° 04′ 鮭ヶ崎

本州最西端
山口県下関市

北緯 34° 06′ 東経 130° 51′ 毘沙ノ鼻

本州最南端
和歌山県串本町

北緯 33° 26′ 東経 135° 46′ 潮岬

本州最北端
青森県大間町

北緯 41° 32′ 東経 140° 54′ 大間崎



最果ての地。
豪快なマグロ漁で賑わう。

三方を海に囲まれた本州最果ての地、「大間崎」。目の前には津軽海峡、弁天島には白と黒が印象的な灯台が立ち、その向こうには北海道の山並を間近に感じることができます。旧国道沿いにあり、駐車場も整備されていますので、気軽に立ち寄ることができます。是非、大間町で大間まぐろを食べてみてはいかがでしょうか。

本州最東端
岩手県宮古市



三陸海岸の優美な景観と、
とびうさぎの海の幸

本州最東端の地、鮭ヶ崎。自然歩道を進み、約1時間。波の音と潮の香りが近づくと目の前には、どこまでも広がる青い海と白い灯台が待っています。おおらかに弧を描く水平線は、時の経過を忘れさせてくれるまさに「絶景」です。車では行けない秘境ですが、その分、一見の価値がありますので、ぜひ本州最東端のまち・宮古にお越しください。

本州四端をたずねて当たる！
本州四端踏破ラリー

本州四端のまち(宮古市、下関市、串本町、大間町)のすべてを訪れた方に、
本州四端踏破証明書を交付するとともに、記念品を贈呈いたします。

- **応募書類**
本州四端の到着(訪問)証明書のコピー又は、本州四端に到着したことが分かる、本人が写っている写真、住所、氏名、年齢、電話番号を必ず添えてください。
- **応募方法・応募先**
郵送またはメールでお願いいたします。
○ 郵送での応募
〒750-8521 山口県下関市南部町1番1号
下関市総合政策部企画課「本州四端踏破ラリー係」
○ メールでの応募
sskikaku@city.shimonoseki.yamaguchi.jp



- **賞品**
4首長のサイン、シリアルナンバー入りの本州四端踏破証明書、本州四端オリジナル箸(箸袋入り)
※ご応募の際に「黒」か「赤」のどちらかをご指定ください。
また、12月末日までに応募いただいた方の中から抽選で10名様に本州四端の特産品をプレゼントいたします。
- **実施主体**
本州四端協議会
- **その他**
ご送付いただいた写真は、ホームページ上に掲載する場合もございます。その際には事前にご連絡申し上げます。

本州四端の到着(訪問)証明書 発行場所・時間

市・町	発行時間	価格	発行場所	発行主体
宮古市	9:00~18:00	100円	宮古駅前総合観光案内所	宮古観光文化交流協会 0193-62-3534 ※市内一部宿泊施設でも販売しています。詳しくはお問い合わせください。
	8:30~17:00		浄土ヶ浜レストハウス	
	9:00~17:00		道の駅みやこ	
下関市	9:00~18:00	100円	JR下関駅観光案内所 JR新下関駅観光案内所	しものせき観光キャンペーン実行委員会 083-223-1144
	8:30~16:30	300円 (観光タワー 入場料込)	潮岬観光タワー	
串本町	8:30~17:00	100円	南紀串本観光協会	南紀串本観光協会 0735-62-3171
	9:00~16:00	200円	大間崎レストハウス(5~10月)	
大間町	8:45~17:45	200円	大間町観光協会 (過半数主、日、祝祭日は休みのため、 前もって観光協会事務局へ確認してください。)	

下関市 本州四端 検索

発行／本州四端協議会
(事務局：下関市総合政策部企画課)
〒750-8521 山口県下関市南部町1-1 TEL.083-231-1911

行ってみようよ!!
本州四端

たずねて当たる!
本州四端踏破ラリー
実施中!

本州四端って?

本州四端とは、
本州の四方位の最端の地である
岩手県宮古市、山口県下関市、
和歌山県串本町、青森県大間町のことです。



びしゃのはな
毘沙ノ鼻
The west end of the mainland
SHIMONOSEKI CITY



本州最西端
山口県下関市
北緯 34° 06′ 東経 130° 51′ 毘沙ノ鼻

しおのみさき
潮岬
The south end of the mainland
KUSHIMOTO TOWN

本州最南端
和歌山県串本町
北緯 33° 26′ 東経 135° 46′ 潮岬

おおまざき
大間崎
The north end of the mainland
OMA TOWN

本州最東端
岩手県宮古市
北緯 39° 32′ 東経 142° 04′ 鮭ヶ崎

温暖な気候、
恵み豊かな黒潮に抱かれる。

本州最南端の地、潮岬は紀伊半島の南端に位置します。これは、東京の八丈島とはほぼ同緯度になります。また、周辺には「望楼の芝生」という約10万平方メートルの広大な草原が広がっています。太平洋の大海原と草原に囲まれた美しい景観で、年間を通じて多くの方々が訪れています。ぜひ本州最南端の地から、地球の大きさを体感してみてください。

海峽の歴史に彩られた、
ふくのまち。

日本海の荒波にさらされた、まさに本州の最西端の地です。展望広場が整備され、気軽に立ち寄ることができるようになりました。海拔120メートル、水平線に沈んでゆく太陽、日本海の夕暮れはとてもロマンチック!是非一度本州でいちばん遅い夕暮れを見にいらしてください。

三方を海に囲まれた本州最果ての地、「大間崎」。目の前には津軽海峡、弁天島には白と黒が印象的な灯台が立ち、その向こうには北海道の山並を間近に感じることができます。旧国道沿いにあり、駐車場も整備されていますので、気軽に立ち寄ることができます。是非、大間町で大間まぐろを食べてみてはいかがでしょうか。

本州最東端の地、鮭ヶ崎。自然歩道を進み、約1時間。波の音と潮の香りが近づくと目の前には、どこまでも広がる青い海と白い灯台が待っています。おおらかに弧を描く水平線は、時の経過を忘れさせてくれるまさに「絶景」です。車では行けない秘境ですが、その分、一見の価値がありますので、ぜひ本州最東端のまち・宮古にお越しください。